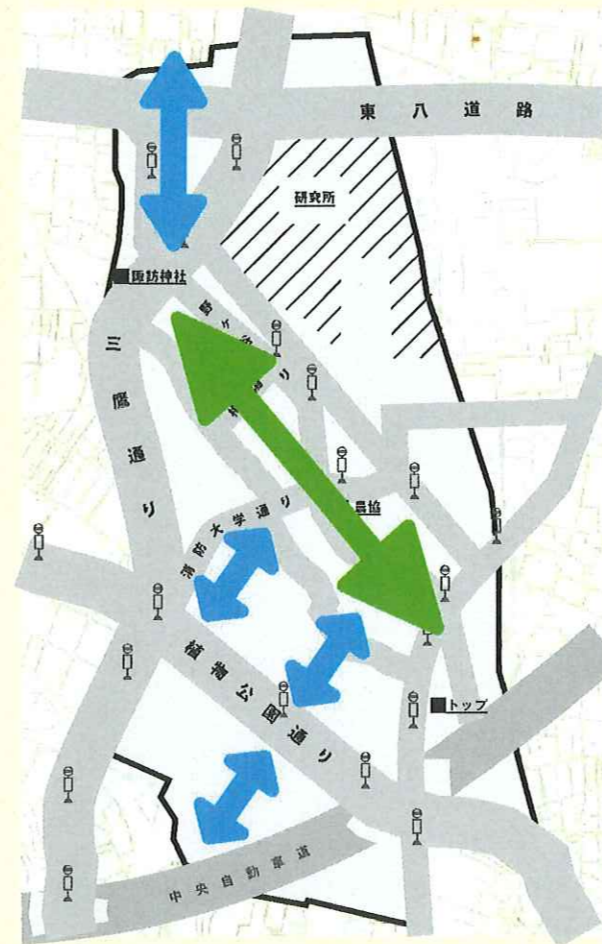
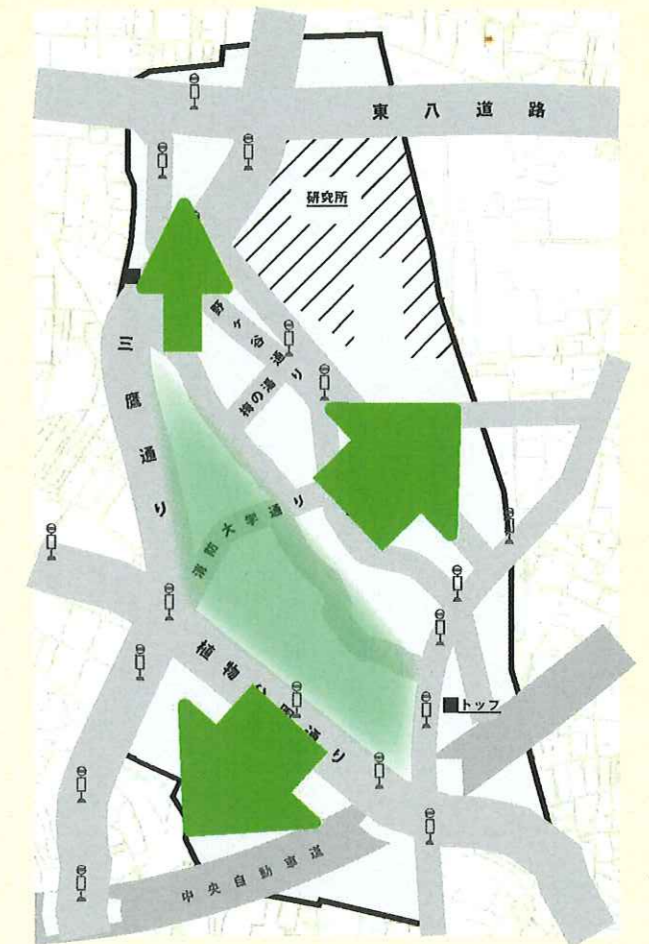


要素別計画一全体図



歩行者のネットワーク

↳ 安全かつ快適な歩行者軸の整備に取り組みます。また、拠点及びバス利用を想定した、幹線道路へアクセスしやすいルートにおける歩行空間の整備、安全・快適性の向上に努めます。



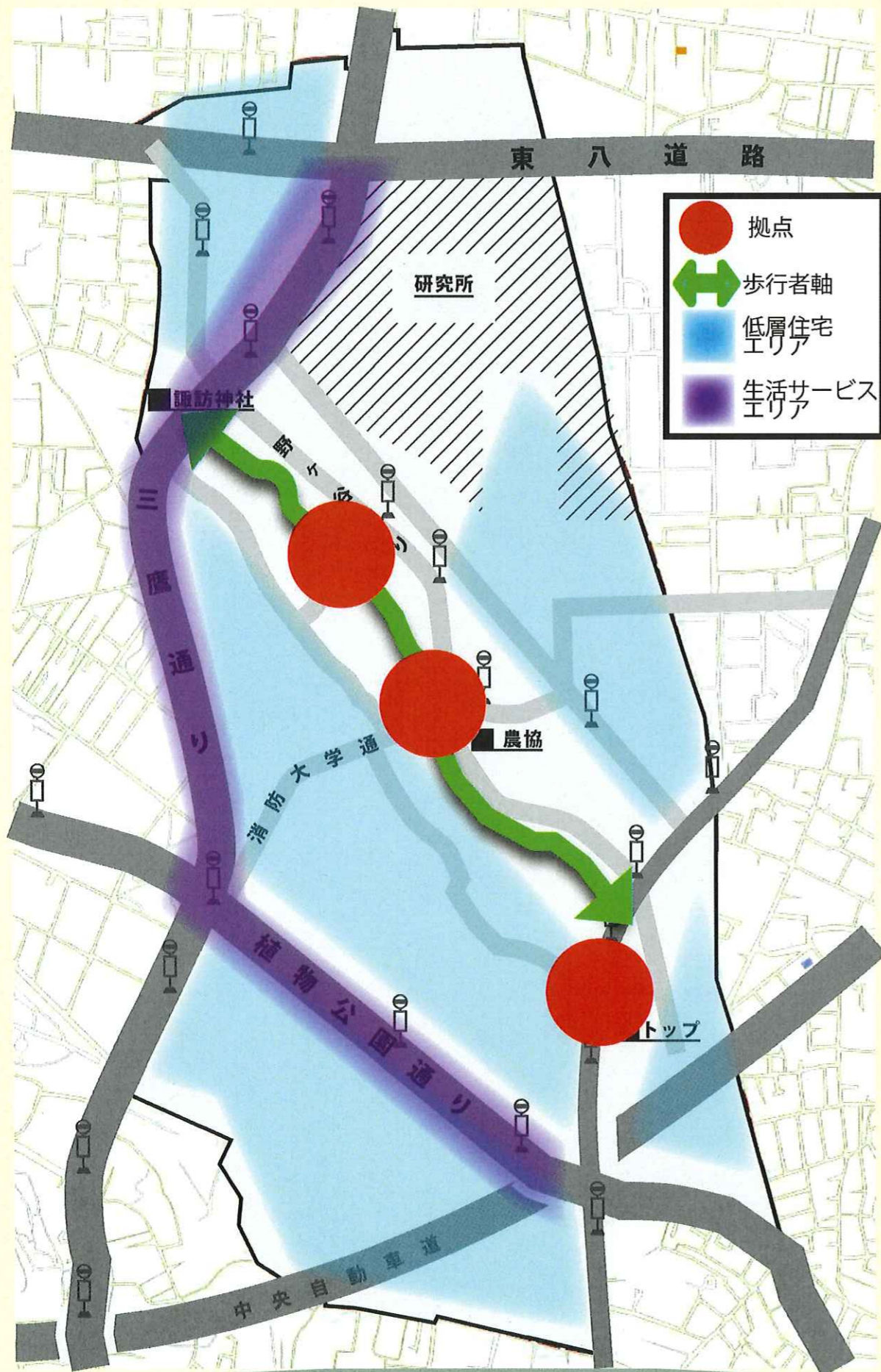
農地緑地に関する「集中」と「波及」

↳ 農住共存重点エリア及び歩行者軸においてまず集中的に、農地の利活用や緑地の整備に取り組みます。そして、そこを起点に少しずつ取り組みを拡大させ、農地と共生した良好な住環境づくりを目指します。

まちの将来像

↳ どの世代も住み続けたいまちを実現するため、まちの将来像を右図にまとめます。地区における生活の要所である拠点をつなぐように、車両交通等を考慮した、歩行者が拠点を気軽に利用できる歩行者軸を配置します。また、現状農地等が地区内で比較的豊富な深大寺東町1,2及び5丁目周辺を農住共存重点エリアとし、住宅と農地・緑地の共存環境を形成していきます。そのほかの場所でも、農地・緑地との共存環境づくりに取り組み、住宅街としてのまちの在り方を向上して行きます。





1：生活環境の向上に向けた拠点の整備

↳ 当地区は日用品や食料品の手軽な買い物がしづらく、また身近に利用できる飲食店が乏しい状況にあります。徒歩でも暮らせる便利な生活のため、今ある飲食・商業施設と連携し、拠点の維持・増進に取り組めます。また、飲食・商業施設に近接する形でコミュニティ施設の整備を図り、より利便性の高い住宅地を目指します。

2：幹線道路における飲食・商業施設等の誘致

↳ 拠点以外にも土地利用規制が比較的緩い幹線道路沿いにおける、飲食・商業施設等の誘致を目指します。とりわけ、近年都市計画道路の変更が検討されている神代植物公園通りに関しては、道路拡幅による建て替えが予想され飲食・商業施設の立地が考えられるため、それら施設の誘致に取り組めます。

3：快適な歩行者軸の形成

↳ 拠点や幹線道路沿い飲食・商業施設を気軽にストレスなく利用可能とするため、歩行者が快適に安心して行き来できる通り、歩行者軸の整備を目指します。

4：良質な住宅街の形成

↳ どの世代も安心して暮らせるまちを形づくるため、良好な街並みや適切な道路配置を有する住宅街の形成を目指します。

● 具体策

① 適切な土地利用の実現に向けた規制の見直し

⇒ 当地区において特に高い利便性を誇るトップ深大寺店の周辺一帯において、現状の土地利用規制によれば、施設の更新が困難であり、長期的な持続性に懸念があります。そのため、早期の解決が求められます。

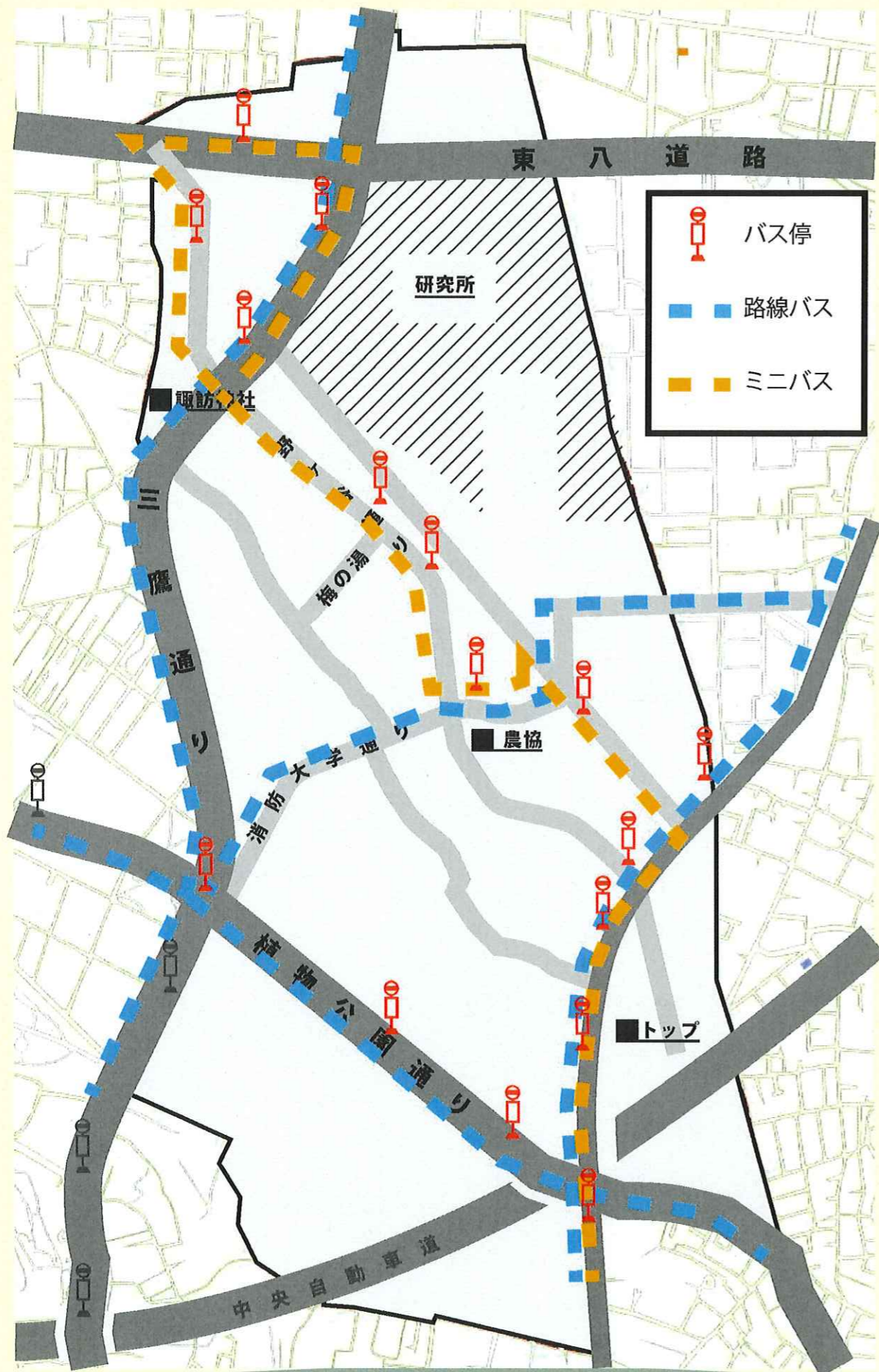
⇒ 神代植物公園通りにおいて、都市計画道路の整備が具体化する際には、沿道の土地利用が変化する可能性が大きくなります。適切な土地利用により、飲食・商業施設等を確保することが必要とされます。

⇒ 研究施設において、現状土地利用規制が緩く、土地売却に端を発する周辺とは異なる規模の建物が建設される可能性があります。事前の防止活動が重要になります。

② 飲食・商業施設の誘致

⇒ 飲食、商業及び行政サービス等の生活関連施設が求められています。





1：都市計画道路変更による神代植物公園通りの拡張整備の推進

↳ 現在、神代植物公園通りは都市計画道路への変更が検討されています。都市計画道路の整備に伴い道路幅等が行われるため、深大寺植物公園通りにおけるバス停のスペースや安全な歩道の確保が期待できます。そのため、神代植物公園通りの都市計画道路への変更の推進に取り組みます。

2：安全なバス停の確保

↳ 当地区に存在するバス停は片側1車線の幹線道路沿いを基本としており、それらの道路においては十分な歩道が確保されておらず、バス停の利用には常に危険が伴います。そこで、バス路線周辺の農地や店舗等と協力し、安全なバス停づくりに取り組みます。

3：誰もが使いやすいバス路線網の形成

↳ 市内には路線バス網が張り合わされており、市民の身近な足となっています。しかし、当地区はバスの利便性に関して本数の少なさという問題が存在します。そこで、バスの運行に関してバス会社と協力し、運行本数、特に夜間や終便の改善に取り組みます。また、ミニバスの利便性についても改善に取り組みます。

4：生活道路の安全性・快適性の向上

↳ 生活道路とは地区交通の処理、街区形成、沿道へのアクセス確保、良好な生活環境のための空間確保、災害時の避難経路等の機能を持つ道路のことです。しかし、当地区の生活道路は歩行者と車の距離が近く、また小規模な宅地開発による行き止まりがあるなど事故のリスクを多分に含んでいます。安全、快適に地区内を移動可能な生活道路の整備を目指します。

● 具体策

- ① 都市計画道路変更の推進
 - ⇒ 説明会等に関して、さらなる住民同士の情報共有及び合意形成に努めます。
- ② バス停の増設・移動の交渉、用地確保
 - ⇒ 幹線沿いの商業施設あるいは農地緑地の活用も視野に入れ安全なバス停の確保します。
 - ⇒ 1車線しかない幹線道路にバス停が存在するため、バスが停車するたびに車両交通が滞りやすい状況が考えられます。またそれによる当地区内への通過交通の発生が予想されるため、バスベイの設置が一層重要になります。
- ③ バス運行に関する交渉
 - ⇒ ミニバスや夜間における運航本数、ダイヤについてバス会社と協議します。
- ④ 行き止まり道路の発生防止





緑豊かな街並みの形成

- ↳ 当地区は近隣に深大寺や神代植物公園が立地し、農地も多く存在する場所となっています。この地域の特徴を活かし後世にも残していくことを目指し、地区全体で農地、緑地の保全や改善に取り組みます。また、農地、緑地の配置・連続性を意識し、より緑や自然が身近に感じられる環境づくり、交通計画と連携した緑のある歩行者空間の創出に取り組みます。そして、農地緑地増進エリアから緑豊かな街並みを形成して行くことにより、調布市北部地区の独自性や住環境の更なる向上を目指します

農住共存重点エリア

多様な農地緑地の利活用

- ↳ 当地区は豊富な農地を有し、地域の特色の1つとして確立しています。これら農地の今後の維持・活用に関して、農産物の生産を主としながら、農地の貸し借りや市民農園の住民による多様かつ活発な利用を目指します。また、多世代の交流空間または災害時の有効活用地としての可能性を視野に入れ、日常的な教育や地域交流の場としての活用を目指します。

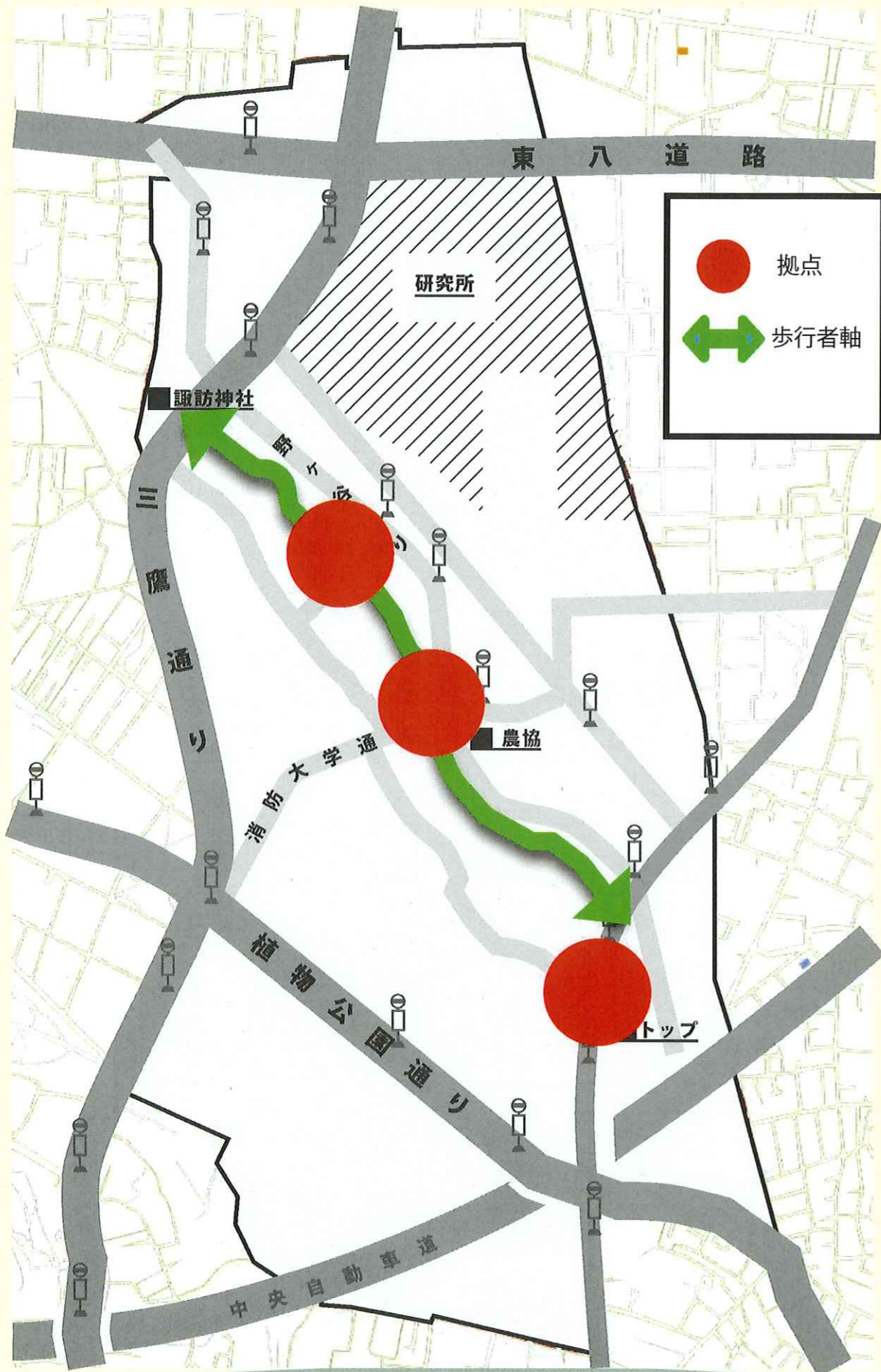
良質な子育て環境の創出

- ↳ 当地区は若年層が調布市内でも比較的多く暮らしており、地域の活気の源である子供達やその親御さんたちがのびのび暮らせる地域を創出していく必要があります。子育て環境に関して農地・緑地分野においては、子供達が安心安全に過ごせる、また親御さんたちが安心して遊びに行かせることを意識した、土地や動植物に触れられ、豊かな体験が得られる公園や緑地づくりを目指します。

● 具体策

- ① 道路・オープンスペース、歩行者軸での緑化活動、管理活動
 - ⇒ 農住共存重点エリアから取り組み、徐々に地域全体へと活動を広げていきます。
- ② 外観や看板等に関する農地管理の統一化のルール作り
 - ⇒ 住民主体で道路沿いに花などを植える等の工夫が考えられます。
- ③ 農地の貸し借りを円滑化する仕組みづくり
- ④ マルシェや芋ほりなど地域と農業をつなげる活動の計画及び運営
- ⑤ 市民農園のデザイン、管理活動
- ⑥ 建物或いは個人単位での小さな緑化活動や推進





1：拠点におけるコミュニティ施設・滞留区間の整備

↳ 当地区にはコミュニティ施設が乏しく、滞留空間もほとんど存在しません。拠点に、コミュニティ施設や滞留空間の設置を図り、住民同士の自然な交流が生まれるまちを目指します。

2：農地緑地及び滞留空間の支援

↳ 当地区は付近に神代植物公園を有していますが、地区のみで見たとき公園が乏しくまた賑やかさもあまり見られません。今後農地の利活用や滞留空間等の整備を進めていくと、当地区には様々な活動の場が生まれることとなります。この様々な活動の場を十分に活用してもらうため、住民の認知や利用を促す広報活動やイベント活動に取り組みます。この活動の場が住民交流、コミュニティ形成のきっかけとなることを目指します。

3：多世代及び横断的コミュニティ形成

↳ 当地区は様々な年齢層が暮らし、また3つの小学校区を有しています。この特徴を活かし、世代間或いは学校間等の交流の可能性を検討し、多世代又は横断的な交流、コミュニティ活動の発生を図ります。

● 具体策

① 滞留空間の整備

- ⇒ 拠点における快適な滞留空間づくりをおこないます。
- ⇒ バス停にベンチ等の座れるものを設置します。
- ⇒ コンビニ等のイートイン設置を推進します。
- ⇒ 歩行者軸を心地よい空間とする街路樹やデザインを取り入れます。

② コミュニティ形成のきっかけづくり

- ⇒ 学区連合PTAの設置を検討します。
- ⇒ 農家と連携し、マルシェを開催します。
- ⇒ 幼稚園と農家で連携し、各々の農家に許可を取り、農業体験を行います。

